

◆小西喜代次議員の賛成討論

ただ今上程されています意見書案第 26 号「原発ゼロ」の日本を求める意見書案について賛成の立場から討論します。

今月 14 日広島高裁が、四国電力の伊方原発 3 号機の運転差し止めを命じる決定を出しました。火山国・日本で原発を動かすことが、いかに危険であるかを司法がきびしく警告したものです。事故を起こせば、取り返しのつかない被害を及ぼす原発のリスクはいよいよ明白です。原発再稼働の推進をやめるべきで、再稼働を止めることが「原発ゼロ」の願いを実現する試金石です。

2011 年 3 月の福島原発事故が浮き彫りにしたのは、原発は危険な技術で、ひとたび事故を起こせば、長期間、広い地域に、これまで経験したこともないような大被害を及ぼすことです。「学者の国会」と言われる日本学術会議も最近の提言で、原発は「未完の技術」で、福島原発では事故処理のために過去の発電による売り上げを上回る資金が費やされると指摘しています。

原発に依存しない「原発ゼロ」の実現こそ世界の流れであり、圧倒的多数の国民の願いです。それに逆らって原発に固執し、電力会社と一体になって、福島原発事故後いったん全国で停止していた原発を、次々と再稼働させているのが安倍政権です。

安倍政権は原子力規制委員会の審査に「適合」した原発は再稼働させると明言し、次々と再稼働させていますが、規制委員会の基準は国際基準以下で、避難計画も審査せず、「適合」とされても安全になるわけではありません。

かつて国内には 50 基を超す原発がありましたが、福島原発事故のあと全国の原発が約 2 年間停止し、いまでも一部しか動いていなくても電力不足は起きません。「原発ゼロ」でやっていけることは明白であり、「原発ゼロ」を目指すなら再稼働は必要ありません。どの世論調査でも、再稼働反対は国民の中の揺るがない多数派です。

再稼働すればそれだけで危険が高まるだけでなく、運転中は原爆の材料にもなるプルトニウムを含む使用済み核燃料がたまり続けます。計算上ではわずか 6 年ですべての貯蔵プールが満杯になります。使用済み核燃料の再処理はほとんど海外に委託しており、日本はプルトニウムを 47 トンも保有しています。原発の運転は、核兵器の拡散の点からも大問題です。

「原発ゼロ」の政治決断を行い再稼働は中止、再稼働させた原発は運転を停止し、廃炉のプロセスを進めることが喫緊の課題です。原発の再稼働反対。原発ゼロの日本、再生可能エネルギー先進国をめざすことこそ国民多数の願いです。

よって、「原発ゼロ」の日本を求める本意見書が採択されますよう議員各位のご賛同をお願い申し上げます。